

国語科学習指導案

日時 令和6年 11月2日(土)
 第1校時 8:30～9:20
 対象 2年5組 39名
 学校名 東京都立国立高等学校
 指導教員 指導教諭 宗京 少織
 授業者 教諭 市川 祐人
 会場 2500HR 教室

1 単元(題材)名

『源氏物語』「桐壺」

2 単元(題材)の目標

- ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

〈知識及び技能〉(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ア

- ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。

〈思考力・判断力・表現力等〉(1)読むこと オ

- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

3 単元(題材)の評価規準

	ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規 準	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
学習活 動に即 した具 体的な 評価規 準	●読解に必要な基本的な語彙・古典文法・表現を理解しているか。 ■記述の点検 ①語彙や文法に基づいて、作品を理解している。	●根拠を明らかにしながら本文を読み取り、それをもとに自分の考えを深めているか。 ■記述の点検 ①グループ討議、活動、交流を通して自分の考えを深めている。 ②本文を読み、自分の考えを持ち、表現している。	●他の生徒との意見共有によって、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めているか。 ■記述の点検 ①グループ討議に積極的に参加し、他の人の意見をもとに自分の考えを深めている。 ②生成 AI を活用し、自分の考えを深めながら参加している。

4 指導観

(1) 単元観

本授業では、基礎的・基本的な知識及び技能を育むこと、本文を根拠に自らの考えを表現し共有し合うことを軸に授業を組み立てている。古典の世界を味わい、我が国の伝統的な言語文化を読み解いていくためには、基本的な文法や単語、表現技法、文章の種類等を知識・技能として確実に身につける必要がある。令和6年度共通テストの古典の知識及び技能を問う問題（単語・漢詩の形式・句法）の中には、正答率3割を切る問題もある。大学入試を突破する力を育むためには、知識を身につけさせ、それをもとに思考・判断・表現をさせていく授業が重要であることは自明である。

以上を踏まえたうえで本単元『源氏物語』では、本文の文法や単語を丁寧に追っていく時間、それをもとに自らの考えを深める時間のタームに分けている。前時までは前者に当たり、本文の表現をもとに桐壺の更衣が置かれた状況について理解を深めさせる。それをもとに本時では、生成AIを活用し、桐壺の更衣視点の小説に書き換えるリライト活動を行う。生成AIについて、今井氏^[1]は、プロンプトエンジニアリングの重要性について述べている。前時までに読み取った内容を、いかにプロンプトに反映させ、求める出力を得られるかについて試行錯誤させながら、授業を進めていく。本時では、クラスを「女御・更衣班」と「帝班」に分けてそれぞれリライト活動を行う。「女御・更衣班」には、周りの女性たちが桐壺の更衣に対して嫌がらせを行う場面、「帝班」には、帝が過度な愛情を表現する場面をそれぞれ配布する。それぞれリライトを行った後、簡易的なジグソー法によって共有し、何を根拠にそのような作品にしたのか説明させる。ただの自由な創作にせず、根拠をもって理解するための工夫である。

(1)今井翔太『生成AIで世界はこう変わる』2024年1月 SBクリエイティブ株式会社

(2) 生徒観

対象クラスは学習意欲が高く、教員からの問いかけにも多くの生徒が積極的に発言する明るい雰囲気をもったクラスである。9月～10月に行った古体詩の授業では、班ごとに一つずつ担当詩を決め、解説し合う活動を行ったが、どの班も充実したスライドを作成し、お互いに理解を深め合うことができた。また、第二回考査においては学年でトップクラスの平均点を誇るクラスでもある（古典探究）。

知識・技能の徹底・定着のため、毎週金曜日は単語テスト、土曜授業日は文法の復習を授業の最初に行うこと、その日の授業のまとめをスクールタクトに記入することをルーティーン化している。文法の復習は、各自がやりたい箇所を自由に取り組みせることで、個別最適な学びを実現しており、以下の図の通り、達成度を可視化している。夏休みの課題として文法のワークを課したことも相まって、第一回考査と比較して第二回考査の基本的な文法の問題の正答率は大きく伸びた。また、授業のまとめは、二文で接続詞を使うというルールを課し、文のつながりを意識した文章を書けるよう工夫している^[2]。そのまとめは授業開始時、ワードクラウドを使うことで前時の復習としても活用している。

本授業では、基本的な知識・技能を踏まえつつ、テキストにははっきりと描かれていない桐壺の更衣の心情を生成AIを活用してリライトする活動を行う。生成AIに関しては、『枕草子』『すさまじきもの』の学習後、現代版「すさまじきもの」を作るという活動で経験済みである。今回は完全な創作ではなく、本文の根拠を盛り込ませることを生徒に理解させながら行う。はっきりと書かれてはいないものの、本文中に描かれた周りの女御・更衣の反応や帝のふるまい等、読み取ったことを条件としてプロンプトに取り入れさせながら授業を進める。

(2)中島博司「R80」<https://find-activelearning.com/set/309>

図 古典文法復習 記録シート

[illegible]

(3) 教材觀

『源氏物語』は、日本を代表する長編古典作品である。本授業で扱う「桐壺」は、光源氏の母親である桐壺の更衣が亡くなるという、後の展開において重要な描写がなされる『源氏物語』の冒頭部分である。山本淳子氏は、『源氏物語』の主題について、「愛は人を幸せにするのか？不幸へと導くのか？権力は人を幸せにするのか？不幸へと導くのか？」という言葉で表現している³⁾。帝の桐壺更衣への偏愛に気づくとともに、登場人物たちの苦悩や嫉妬といった複雑な心情を読み味わうことのできる本教材は、自身の考えを深めていくことができる適材だと言える。さらに、そのような状況下で生まれた主人公・光源氏の特異性を押さえ、その後の源氏の境遇を的確に理解させる。強固なプロットによって構成され、現代にも通ずるであろう主題を持つ本教材を扱うことによって、生涯にわたって我が国の伝統文化を大切にする態度を育成したい。

(3)角田光代 山本淳子『いま読む『源氏物語』』2024年8月 河出書房新社

5 年間指導計画における位置付け

1 学期：『大鏡』『南院の競射』『花山天皇の出家』『方丈記』『ゆく川の流れ』『養和の飢饉』

「漱石枕流」「画童点睛」「杞憂」「雜說」「桃花源記」「漁夫辞」

2 学期：『枕草子』『中納言参り給ひて』『すさまじきもの』

『更級日記』『門出』『源氏物語を読む』

『源氏物語』『光源氏誕生』『小柴垣のもと』

「桃夭」「行行重行行」「飲酒」「史記」「鴻門の会」「四面楚歌」

3 学期：『平家物語』『壇ノ浦』

『古今和歌集』『新古今和歌集』『梁塵秘抄』『古事記』『去来抄』

『孟子』『荀子』『老子』『莊子』『韓非子』

6 単元（題材）の指導計画と評価計画（全8時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準
1	『源氏物語』の基礎知識を学ぶ。	『源氏物語』の文学史的な位置や、設定、登場人物などを学ぶ。	読解に必要な基本的な語彙・古典文法・表現を理解しているか。(知識・技能)

2～4	「桐壺」を読み、宮中の人々の心情を理解する。 基本的な文法事項を学ぶ。	当時の身分や地位に着目し、帝の寵愛がどのように受け取られていたのか考える。	読解に必要な基本的な語彙・古典文法・表現を理解しているか。〈知識・技能〉
5（本時）	桐壺の更衣の心情をリライトを通して理解する。	生成 AI を活用したリライトを通して桐壺の更衣の心情を理解する。	根拠を明らかにしながら本文を読み取り、それをもとに自分の考えを深めているか。〈思考・判断・表現〉
6～8	「若紫」を読み、基本的な文法事項を学び、あらすじを理解する。	光源氏が若紫に惹かれる理由を突き詰めていくと、亡き桐壺の更衣を追い求めていること（紫のゆかり）を理解する。	他の生徒との意見共有によって、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めているか。〈主体的に学習に取り組む態度〉

7 指導に当たって

学習指導要領を踏まえて、次のような指導の工夫を取り入れた。

- ・授業の最初に文法の復習・記録を行い、個別最適な学び、知識・技能の習得をさせる。
- ・課題として授業の最後にまとめを書かせ、次の授業の最初に確認するルーティーンを行っている。その際、スクールタクトを活用している。また、「二文・接続詞を使う」というルールを付けることで論理的な文章を書く能力を養う工夫をしていく。
- ・生徒自らが考え、班やクラスで発表する時間を多く取ることで、授業に参加しているという実感を持たせる。
- ・生成 AI を活用させ、生徒同士の学び合いを円滑にしている。

8 本時（全 8 時間中の第 5 時）

(1) 本時の目標

桐壺の更衣の心情を生成 AI を活用したリライトを通して理解する。

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 1 7 分	文法の復習	○自分がやるべきだと考える箇所を自由に取り組みせ、エクセルシートに記入させる。	
導入 2 3 分	○前回の復習 ○本時の目標確認	○スクールタクトのワードクラウドを表示し、前時を振り返らせる。	
本時の目標 「桐壺の更衣の心情について、生成 AI を活用したリライトを通して理解する。」			
展開 1 20 分	○生成 AI を使い、桐壺の更衣視点に担当箇所を書き換える。	○プロンプトはあらかじめ指示し、生成 AI との対話を通して理想の出力ができるよう工夫させる。 ○本文の根拠を説明できるようにさせ	根拠を明らかにしながら本文を読み取り、それをもとに自分の考えを深めているか。〈思

展開 2 15 分	○他の担当班のリライト作品を読み、理解を深める。	る。 ○完成したものはスクールタクトに貼り付けさせる。 ○班員を半分ずつ入れ替え、読み合う。 ○何を根拠に作成したのか、工夫した点は何かを説明させる。	考・判断・表現》■記述の点検 ①グループ討議、活動、交流を通して自分の考えを深めている。 ②本文を読み、自分の考えを持ち、表現している。
まとめ 5 分	○桐壺の更衣が最終的に亡くなってしまう理由について考える。	○リライト作品を通じて理解できたことを統合して考えさせる。	

(3) 板書計画

黒板にはスクールタクトの画面と、本時の目標をプロジェクターにより出力する。

(4) 授業観察の視点

- ・生徒が主体的に授業に臨んでいるか。考えを深めているか。根拠を明らかにしながら説明しているか。
- ・グループ活動が意義あるものになっているか。
- ・生成 AI が意義あるものになっているか。